

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
心とからだをきたえ、ともに学び合う児童の育成  ・すすんで学ぶ子 ・やさしい子 ・やりぬく子	学び合い・仲間づくりの推進と地域連携 ～言葉の力を高めよう～ ○進んで学習に取り組み、学び合いで考えを深めあう子どもを育てる。 ○なかまと協力し、互いに支えあう子どもを育てる。 ○最後までやり抜く粘り強い子どもを育てる。 ○地域の自然や文化に親しみ、院庄を愛する子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>○国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で正答率が県平均を上回っているが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域で正答率が県平均を下回っている。</p> <p>○国語Bでは、「書くこと」「読むこと」の2領域で県平均を上回っているものの、「話すこと・聞くこと」の領域で正答率が県平均を下回っている。</p> <p>○国語の自分の考えを書く問題については、正答率が県平均を大きく上回っている。</p> <p>○算数Aでは、「数と計算」「量と測定」「図形」の3領域で正答率が県平均を上回っており、基礎的な学力の定着が見られる。</p> <p>○算数Bでは、すべての領域で正答率が県平均を少しずつ下回っているものの、「量と測定」領域においては正答率が全国平均を上回っている。</p> <p>○算数の問題において、示された方法を問題場面に適用することができる力や、自分の考えを言葉にして表現する力が高い。</p> <p>県</p> <p>○国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域において正答率が県平均を下回り、「読むこと」の領域においては正答率が県平均を大きく下回った。</p> <p>○「段落の構成に気をつけて文章を書く」問題に課題が見られる。</p> <p>○算数では「量と測定」「図形」の2領域においては県平均を上回る傾向にあったが、「数と計算」「数量関係」の2領域においては県平均をやや下回った。</p> <p>・配当漢字の読み書きについては、全学年ほぼ全国平均を上回っている。</p> <p>・目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題:本校58.1%(全国76.2%)</p> <p>・時間の単位の関係理解:本校46.2%(全国73.4%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○新聞を毎日読んでいる児童の割合は、県・全国平均から大幅に上回っている。</p> <p>○平日にテレビやビデオ、スマートフォンなどを4時間以上する児童の割合は昨年同様県・全国平均よりも高く、家庭内での約束がなかったり、あっても守っていないと答えた児童の割合は県平均よりも高かった。</p> <p>○家庭学習(塾などを含む)をしている児童の割合は県・全国平均よりも上回っており、本校の中でも昨年と比べて多くなっている。</p> <p>○授業以外で読書をしていない児童が県平均よりも多く、読書が好きだと答えた児童も少ない。</p> <p>○あいさつをしている児童の割合は、県平均をやや下回っている。</p> <p>○地域の行事に参加している児童の割合は全国平均よりも多く、ボランティア活動については大幅に上回っている。</p> <p>○自分には良いところがあると答えた児童の割合は県平均よりも高い。</p> <p>○家族と将来について話す児童が多く、そのため85%の児童が将来について前向きに考えていて、夢があると答えた。</p> <p>○話し合いの中で意見をもつことができているが、それを人前で自分の意見を言ったり説明したりするのが苦手だと思っている児童が多い。</p> <p>○算数が好きと答えた児童の割合が県平均よりも少し上回っているが、新しい問題に積極的に取り組もうとする児童は少ない。</p>
--	---

成果	課題
○国語科における「漢字の読み書き」の基礎的な力は、昨年同様定着率が高い。 <p>○授業のふり返りを書く取り組みを継続的にしていることで、自分の考えを書く問題において正答率が上がっているものと考えられる。</p> <p>○算数科における「数と計算」の力は、昨年と比べて定着率が高い。</p> <p>○昨年と比較して、「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合は高くなった。</p> <p>○地域の活動に参加している児童の割合や家族と将来のことについて話す児童が多く、地域や家庭の中で居場所があり、自己有用感につながっている。</p>	○国語・算数ともに全体的に正答率が全国・県平均を下回っている。 <p>○長文を含む問題では、尋ねられていることに対する情報の取り上げ方や、答え方等が食い違っていることが多い。</p> <p>○起床時刻や就寝時刻など、基本的な生活習慣に課題が見られる。</p> <p>○テレビやスマートフォンなどのメディアに接している時間が多く、家庭でのきまりなど取り組み方に課題がある。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語・算数の基礎的な学力の向上	漢字・計算まとめテストを実施(毎学期末)。	各テストにおいて、学年平均80点以上を目指す。	問題データベースや計算・漢字の習熟プリントを活用し、「朝学習」や「ふり返り学習」の時間に苦手な部分の復習をしたり、家庭学習として取り組んだりする。	2学期の漢字まとめテスト学校平均83点、算数まとめテスト学校平均79点。3学期も引き続き、問題データベース等を活用し基礎学力の定着を図る。	B	3学期の漢字まとめテスト学校平均82.7点、算数まとめテスト学校平均80.7点。	A	年間を通じて、問題データベースなどを活用し、朝学習などで基礎基本の定着を図った。全校平均は国・算ともに目標を上回ったが、学年によって差があるので、全学年達成を目指し、来年度も引き続き取り組んでいく必要がある。
読書を通しての言語活動の充実	一年間に、1人あたり100冊以上の読書量達成する。	全校100冊読書100%達成を目指す。	年間100冊読書の取り組みを引き続き行い、読み聞かせボランティアと協力しながらさまざまな内容の本とふれあう機会をより多くつとめ、落ち着いて読書に取り組む経験を積ませる。	100冊読書校内達成率61.3%。3学期も引き続き声かけを続け、読書活動の推進を図る。	B	年間を通じて、週1回朝学習で読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、読書の幅が広がった。100冊読書校内達成率85.8%。	B	読み聞かせボランティアや読書委員と連携して、児童が読書の楽しさを感じられるよう取り組みをしてきた。しかし、落ち着いて読書ができる環境づくりにおいて課題が見える部分もあり、100冊読書100%達成とはならず、来年度へ課題が残った。
家庭の教育力向上	ノーメディアの取り組みの調査を実施。	ノーメディアの日を1週間に1日決め、全校で目標達成する。	PTAと連携しながら、児童の家庭での生活習慣や学習習慣を整える取り組みを継続する。	11月末にノーメディア週間を定め、各家庭で取り組みをした。週に1日以上はほとんどの児童が達成できていた。	A	2/23から1週間、ノーメディア週間の取り組みを行った。ノーメディアができた日全校平均1.8日、少メディアができた日全校平均1.0日、ノーメディア1日以上、少メディア2日以上以上の目標をほぼ達成できた。	A	全校の平均では目標を上回ったが、できている家庭とできていない家庭の差が大きい。来年度からはノーメディアではなく「メディアコントロール」ということで自分メディアへの押し方をコントロールするようになるので、引き続き声かけを続けていきたい。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○学力向上を目指し、『家庭学習100%』『チャイム同時スタート』『学び合い』の3点に重点をおいて指導する。 <p>○生徒指導として『ことばづかい』と『きれいな教室』を中心に、落ち着いた学習環境作りに取り組む。</p>	○学級懇談や地区懇談を利用し、ノーメディアの取り組みを家庭に働きかける。 <p>○公民館活動を中心とする地域の方とのふれあいを通じて、地域に子どもたちの居場所づくりをする。</p> <p>○子育てに関する文化講演会を開催し、家庭の教育力向上を広く呼びかける。</p>